

一般社団法人日本医真菌学会 2024 年度第 3 回理事会議事録

日時：2025 年 7 月 31 日（木）18：00～20：00

場所：（株）春恒社会議室+オンライン開催（Zoom）

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12 新宿ラムダックスビル 9 階

出席：宮崎義継（理事長）

泉川公一、掛屋 弘、金子健彦、杉田 隆、原田和俊、福田知雄、槇村浩一、
矢口貴志、山岸由佳 以上理事 10 名
長尾美紀 以上監事 1 名
阿部雅広、加納 塁、清祐麻紀子、串間尚子、佐藤友隆、栃木直文、浜田幸宏、
森 毅彦 以上幹事 8 名

欠席：神田善伸（理事）、小川祐美（監事）、常深祐一郎、宮崎泰可、渡邊哲（幹事）

議題：

（報告事項）

1. メール審議結果報告（宮崎理事長）

2024 年度第 2 回メール審議の結果を確認した。

2. 会員異動報告（原田総務理事）

2025 年 6 月 30 日時点の会員数の報告があった。合計で 919 名であり、前回より変動はなかった。

3. 各種委員会報告・議事

1) 編集委員会（杉田理事）

①2024 年 9 月～2025 年 6 月の投稿論文数は、MMJ が 43 編、真菌誌が 17 編であった。

②2025 年日本医真菌学会優秀論文賞について、下記論文を選出したことが報告され、異論なく承認された。

Kazuki Amemiya, Sota Sadamoto, Ken Miyazawa, Minoru Shinozaki, Sayaka Ban, Yoshitsugu Miyazaki, Somay Yamagata Murayama, Kazutoshi Shibuya, and Naobumi Tochigi

Title: Optimization of Silver Staining in Artificial Cytology Samples of Filamentous Fungi (Medical Mycology Journal Vol. 64 No. 4 に収録)

③第 68 回総会・学術集会のシンポジウム演者ならびに学術賞・次世代研究者賞・特別功労賞受賞者を対象に執筆依頼を行った。

④2025 年 3 月に受理された単著の依頼総説論文について、著者が同年 4 月下旬にご逝去された。当該原稿は、生前に著者本人により執筆・完成されたものであり、すでに編集委員会において正式に受理されていたため、編集委員会にて必要最低限の整理および体裁調整のみ行い掲載を進めることとした。

⑤依頼総説として掲載予定の論文の著者より、投稿規定に則った形での英文化（secondary publication）の希望があり、編集委員会にて条件（読者層の相違、内容の忠実な反映、タイトルでの明示、掲載時期の調整等）を満たしていることを確認し、メール審議により承認した。

⑥昨年 1 社の広告掲載企業が業績悪化のため掲載中止となっており、新たな掲載企業は現れて

いない。10月頃に来期の広告趣意書を発送し、新規掲載企業獲得を目指す。

⑦2025年6月18日にクラリベイト・アナリティクス社より“Journal of Citation Index” (JCR) のリリースが発表された。最新の2024年度JIFは1.9であり、前年から0.5の上昇を確認した(2022年度JIF=1.0、2023年度JIF=1.4)。

2) 用語委員会 (矢口理事)

ICD-11の和訳について確認を行ったことが報告された。

3) 将来計画委員会 (神田理事：欠席)

宮崎理事長より代理報告があり、会員獲得のため、セミナー、研究会等を広報の場として活用しており、他学会とも引き続き連携を図っていくとのことだった。

4) ガイドライン検討委員会 (泉川理事)

① アスペルギルス症のガイドライン改訂版(仮称)作成委員会

利益相反の問題について利益相反委員会に検討を依頼し、決定した方向性に沿ってガイドライン作成を進めていくこととなった。執筆要綱を作成し、2025年6月に担当委員に執筆依頼を送付した。

②カンジダのガイドラインについて、内容の改訂の必要性が提案され、具体的に検討を進めることになった。

5) 支部会・関連学会委員会 (渡邊幹事：欠席)

報告事項なし。

6) 疫学調査委員会 (福田理事)

協力施設候補26施設に2026年次調査への協力可否を打診し、北海道から沖縄まで網羅する22施設から協力を得られることになった。埼玉医科大学総合医療センターの倫理委員会に一括審査の書類を提出し承認されたため、依頼文とともに疫学調査の書類一式を郵送した。また、この準備費用として84,238円の支出が承認された。

7) 教育委員会 (佐藤幹事)

公益社団法人日本農芸化学学会大会(2025年3月4日～8日)にて、本学会との共催シンポジウムが行われたことが報告された。また、2025年8月23日に第12回皮膚真菌症指導者講習会が開催される。

8) 広報委員会 (楨村理事)

ホームページのリニューアルを検討しており、業者選定を進めていることが報告された。

9) 専門医・認定師委員会 (栃木幹事)

議題16で審議した。

10) 規約検討委員会 (金子理事)

報告事項なし。

11) 倫理委員会 (長尾監事)

報告事項なし。

12) 利益相反委員会 (金子理事)

アスペルギルス症ガイドライン改訂版の作成に際してメール審議を行い、「日本医学会診療ガイドライン策定参加資格基準ガイダンス2023」の基準において、金額区分③に該当する者については、「当該企業の製品に関する議論には参加はできるが議決には加わらない」ように運用することを条件として、全作成委員の承認を行ったことが報告された。

13) バイオセーフティ委員会 (阿部幹事)

2022 年に発表した BSL 分類に見直しが必要な部分があるため、委員会で検討を進める予定であることが報告された。

14) COVID-19 合併真菌症検討委員会（掛屋理事）

報告事項なし。

15) 研究戦略推進委員会（原田理事）

研究助成選考については、議題 12 で報告した。また、企業より顕微鏡寄付の申し出があり、これを受け入れ、皮膚真菌症指導者講習会を開催している帝京大学医真菌研究センターに届けられたことが報告された。

16) 真菌検査委員会（清祐幹事）

委員会名称を「真菌検査委員会」とすることが報告された。真菌検査の普及、啓発を目的に活動を行う予定であり、委員会を開催し具体的な活動を開始する。

17) ワンヘルス委員会（加納幹事）

委員会名称を「ワンヘルス委員会」とすることが報告された。2025 年度は MMJ に総説を投稿する予定であり、委員による分担執筆を行う。さらに、科研費や JRA への申請など、外部資金獲得の検討、他団体との共催シンポジウムの検討を行う。また、委員会規定の案が提示され、修正が必要な場合は、1 週間以内に加納幹事に連絡することとし、承認された。

18) Antifungal stewardship 推進委員会（浜田幹事）

委員会名称を「Antifungal stewardship 推進委員会」とすることが報告された。Antifungal stewardship の普及を主軸として、独自のガイドン作成やプロトコル作成の検討、および AMED などの外部資金獲得を目指し、研究事業の推進を図る予定である。

4. 第 68 回総会報告（杉田理事）

第 68 回総会および第 8 回アジア・太平洋医真菌学会学術集会（APSM）の収支報告があった。また、参加費など両学会に共通する収支の取り扱いを明確にするため、本学会と第 8 回 APSM 会長である杉田理事の間で、収支の配分に関する覚書を締結することとしていたが、原案の通り異論なく承認された。

5. 第 69 回総会、第 70 回総会、第 71 回総会準備状況報告

1) 第 69 回総会（山岸理事）

2025 年 10 月 3 日（金）～4 日（土）に、高知県立県民文化ホールにて開催予定である。また、前日の 15:30～17:30 に理事会を、17:45～18:45 に代議員総会を開催予定であることが報告された。

2) 第 70 回総会（榎村理事）

2026 年 11 月 21 日（土）～22 日（日）に東京都八王子市内にて開催予定である。また、70 周年となるため記念誌の制作を予定しているが、これを学会誌の Supplement として発行することが提案され、異論なく承認された。ただし、制作費用は総会予算より支出する。J-STAGE にも掲載を予定している。

3) 第 71 回総会（掛屋理事）

2027 年に大阪府内で開催予定である。

6. 関連国際学会・会議に関する報告（杉田理事）

5 月に ISHAM がブラジルで開催された。参加した榎村理事より報告があった。

7. ICD 制度協議会報告（宮崎幹事：欠席）

報告事項なし。

8. 内保連報告（森幹事）

報告事項なし。

9. 日本医学会・医学会連合報告（串間幹事）

日本皮膚科学会総会にて、複数学会から演者を集めたシンポジウムにて発表を行ったことが報告された。

10. 日本医学会連合女性医師支援担当者連絡会に関する報告（小川監事：欠席）

報告事項なし。

11. 日本微生物学連盟に関する報告（杉田理事）

第 33 回日本微生物学連盟理事会が日本学術会議総合微生物科学分科会・IUMS 分科会と合同で 2025 年 7 月 15 日に開催されたことが報告された。日本微生物学連盟加盟学術団体間の連携強化策が検討されていた。

12. 研究助成選考の件（原田理事）

2025 年 4 月～5 月に募集した、日本医真菌学会・研究助成金、および公益財団法人発酵研究所研究助成金を活用した助成金の採択結果について、下記の通り報告された。

①日本医真菌学会・研究助成金

氏名：仁木 誠（大阪公立大学医学部附属病院 感染制御部）

研究題目：*Candida albicans* のバイオフィルム形成における偏性嫌気性菌との異種間コミュニケーションメカニズムの解明

助成金額：500,000 円

②日本医真菌学会・公益財団法人発酵研究所 研究助成金

氏名：柴田 紗帆（千葉大学真菌医学研究センター）

研究題目：国内のヒトおよび動物より分離された *Cladosporium* 属菌類の分類学的研究

助成金額：500,000 円

③日本医真菌学会・公益財団法人発酵研究所 学術論文雑誌へ掲載料及び英文校閲費助成金

氏名：上小倉 佑機（旭川医科大学病院病理部）

投稿予定雑誌名：Medical Mycology Journal

論文題目（予定）：Invasive Fungal Infection Requiring Differential Diagnosis from Miliary Tuberculosis Based on Imaging: Utility of Genetic and Ultrastructural Analyses from FFPE Tissue

助成金額：200,000 円

13. その他

1) 皮膚真菌症診療ガイドライン 2025 の進捗状況（福田理事）

2019 年に改訂された皮膚真菌症診療ガイドラインの改訂作業が進んでおり、原稿一式を日本皮膚科学会ガイドライン委員会に送り、パブリックコメント待ちの状態であることが報告された。パブリックコメントに対応後、日本皮膚科学会雑誌に「皮膚真菌症診療ガイドライン 2026」として掲載予定である。

2) 第 4 回日本医学会連合 Rising Star リトリート報告（杉田理事）

2025 年 5 月 29 日（木）～30 日（金）にあいち健康の森プラザホテルにて開催され、企画委員の杉田理事を含む 5 名が参加したことが報告された。次期幹事学会は本学会あるいは日本栄養・食糧学会の予定である。

3) 公益財団法人発酵研究所研究助成金報告（杉田理事）

公益財団法人発酵研究所研究助成金を活用して、タクソノミーフォーラムの開催（2回）、研究助成・論文投稿助成、教育支援（皮膚科講習会）を行う予定である。

（審議事項）

14. 2024 年度事業報告案および 2025 年度事業計画案（原田総務理事）

2024 年度事業報告案および 2025 年度事業計画案が提示された。異論はなく承認された。

15. 2024 年度決算見込みおよび 2025 年度予算案（山岸財務理事）

2024 年度決算見込みについて、収入の部では、年会費納入率は昨年同様であったが、会員減少により収入が減少した。また、ガイドライン販売収入は予算を大きく下回ったが、論文掲載料は投稿規定の改定時に値上げとなったため予算を上回った。第 68 回総会・学術集会の余剰金としては、約 300 万円が学会に還元された。支出の部では、投稿論文には英文校正を行わないこととしたため、約 40 万円が削減された。また、研究教育助成金に約 400 万円支出しているが、これは寄付金および発酵研究所助成金を資金としたものである。発酵研究所助成金の残金約 140 万円は 2025 年度に繰り越す予定である。なお、昨年度と同様に、日本医学会連合の受託研究費が収支に計上されている。以上により、2024 年度決算見込みは、約-40 万円の赤字を見込んでいることが報告された。

2025 年度予算案については、概ね例年通り計上しているが、論文掲載料、英文校正費などは決算見込みに倣って変更した。支出では、会費のコンビニ決済化による手数料、および会員マイページ設置による管理費と初期費用が増額となっている。ここで、若手研究者奨学金の金額について審議され、2024 年度と同様に 80 万円とすることが承認された。以上により、約 120 万円の赤字予算案を提案し、これについて審議したところ、一同異論なく承認された。

16. 専門医認定の件（栃木幹事）

①2025 年度専門医審査

新規 2 名、更新 15 名の申請者については認定可能と判断した。更新申請者の 1 名については、参加証を紛失しており他学会の単位記録が提出されたが、証明書類としては不十分であるため意見が求められた。提出書類を確認すると対象の学会には確かに参加していることが分かるが、書類についての説明がないため、申請者が説明を書き加えることを条件に更新を認めることとした。今後は単位認定システムを使用している他学会の記録の写しを証明書類として認める方針で規約の改定を検討することとした。

新規認定（2 名）

岩田 貴子 弥富通いわた皮ふ科クリニック

林 周次郎 獨協医科大学 皮膚科

更新認定（13 名）

菊地 伊豆実、三嶋 廣繁、北見 由季、原田 和俊、牛上 敢、牧野 公治、串間 尚子、高園 貴弘、長谷 翠、戸根 一哉、楠原 正洋、二宮 淳也、坂田 祐一

条件付きで更新認定（1 名）

服部 尚生

更新認定 65 歳以上（2 名）

藤田 繁、服部 尚子

②専門医規則修正について

現行の専門医規則について、改定が必要な文言があることが説明された。内容について異論はな

かったため、次回理事会にて改定条文について提案することとした。

③専門医の海外留学について

専門医より 2 年間ほど海外留学に行くとの連絡があり、委員会にて審議した結果、日本医真菌学会細則「休会細則 10. 専門医認定の新規ならびに更新の申請資格の期間には算入しない」に基づき、休会期間は更新期間の 6 年には算定せず、専門医資格の有効期限の延長を行うこととした。ただし、休会中の論文等の業績については、単位として認めることとする。

17. 学会賞・特別功労賞選考の件（泉川理事）

委員会にて審議した結果、下記の通り受賞資格ありと認めたことが報告され、受賞を承認した。
（学会賞）

受賞者：神田 善伸（自治医科大学内科学講座血液学部門・教授）

受賞題目：造血器疾患患者における侵襲性真菌症対策の確立のための研究

特別功労賞については、委員会にて選出した候補者に連絡がつかず、これから別の候補者に必要書類を依頼することは難しいため、今年度の選出は見送ることとした。来年度以降は今年度検討した候補者を中心に早めに推薦を行うこととした。

18. 学術賞・次世代研究者賞選考の件（杉田理事）

委員会にて審議した結果、下記の通り受賞資格ありと認めたことが報告され、受賞を承認した。
（学術賞）

受賞者：平山 達朗（長崎大学大学院・医歯薬学総合研究科・薬物治療学）

受賞題目：*Candida auris* の manogepix 耐性機構に関する研究

（次世代研究者賞）

受賞者：覺野 重毅（大阪公立大学大学院・医学研究科・呼吸器内科学）

受賞題目：*Aspergillus fumigatus* の細胞毒性と抗真菌効果を評価するための *in vitro* 電気インピーダンスモデルの開発

19. 若手研究者奨学金選考の件（福田理事）

4 名の申請があったが、委員会にて審議した結果、委員の投票による上位 2 名の授与を認めたことが報告され、下記 2 名を承認した。

白髭 知之（長崎大学病院 総合感染症科 感染制御教育センター）

宮澤 拳（国立感染症研究所 真菌部）

20. 名誉会員および功労会員推薦の件（宮崎理事長）

細則に従い、下記の通り名誉会員 1 名、功労会員 5 名が推薦され、一同異論なく承認された。

名誉会員：大野 尚仁

功労会員：江部 司、河井 正晶、下野 信行、服部 尚子、三村 まゆみ

21. 第 72 回総会会長選出の件（宮崎理事長）

原田和俊理事が推薦され、異論なく承認された。

22. その他

1) 希少深在性真菌症の診断・治療ガイドラインサマリーの英文化の件（掛屋理事）

前回理事会で希少深在性真菌症の診断・治療ガイドラインの Summary を英文化して MMJ に投稿することが承認されたが、英文校正費の見積りをとったところ、editage にて 266,162 円（1 年間回数制限なく再校正可）であった。別会社と比較して安価であり、同社で進めることが異論なく承認された。

2) 製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター（NITE・NBRC）への BSL 分類の掲載依頼の

件（宮崎理事長）

（独）製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター（NITE・NBRC）より、2022 年に作成した本学会の BSL 分類を同センターホームページの細菌・真菌リストに掲載したい旨、依頼があった。これについて審議した結果、現在 BSL 分類は学会誌に掲載したのみで、本学会ホームページでの公開は行っておらず、さらに 2022 年に作成したものはバイオセーフティ委員会にて見直しを検討しているところであるため、同センターへの掲載は前向きに検討するが、見直しが終了し、本学会で公表を行ってから提供することとした。

3) メール配信料について（泉川理事、槇村理事）

前回理事会にてメール配信料の見直しについて検討することになったが、進捗状況について質問があり、広報委員会で検討を行っていることが報告された。

以上

2025 年 7 月 31 日

議事録作成人 宮崎 義継

議事録署名人 長尾 美紀